

祝！世界遺産登録「北海道・北東北の縄文遺跡群」

2021 SUMMER Vol.20 世界遺産登録記念号



CONTENTS

- P1 お祝いのご挨拶
- P2 北海道知事
- P3 市町長から喜びのことば
- P4 各団体から喜びのことば
- P5 施設からのメッセージ
- P6 会員メッセージ
- P7 縄文愛を語る座談会
- P8 縄文コラム、編集後記

お祝いのご挨拶

「北海道・北東北の縄文遺跡群」 世界文化遺産に登録決定

北の縄文道民会議 代表 堀 達也



1995年から2期8年北海道知事を務める。その後、北海道開拓記念館（現・北海道博物館）館長や北海道スポーツ協会会長を歴任。知事在職時から、北海道・北東北の縄文文化の普及啓発に取り組む。

設立より多くの方々にご賛同をいただき、現在では約600名の個人会員と30社以上の法人団体会員に支えられながら、北海道庁をはじめ関係自治体や企業の皆様と一丸となって、機運醸成の取組を進めてまいりました。

こうした取組が実を結び、令和元年12月、ユネスコへの推薦が正式決定され、いよいよステージが国内から世界に移ることとなりました。更に、令和3年5月26日にはユネスコの諮問機関であるイコモスから世界文化遺産へ登録するよう勧告があり、この度ついに、正式な登録が決定いたしました。

日頃から当会議の運営に多大なるご支援、ご協力を賜りました北の縄文道民会議の会員の皆様には心からお礼申し上げます。

これまで当会は【世界遺産登録を目指す会】でしたが、今後は縄文遺跡群を守り、応援する会として着実な一歩を踏み出してまいります。

今後も変わらぬご支援をいただきたく、お礼とお挨拶を申し上げます。

北海道・北東北の縄文遺跡群がついに世界文化遺産に登録決定されましたことに、最大の喜びと感激で、更には達成感で胸が熱くなりました。

思い起こせば、私と縄文との歩みは道知事在職中であった平成14年まで遡ります。

第6回北海道・北東北知事サミットで「北の縄文文化回廊づくり」を提議し、縄文文化の魅力発信に4道県が連携して取り組む現在の体制の礎が築られました。

以来、4道県で世界遺産登録を目指すために、推薦書の作成や縄文文化の普及啓発など、日々様々な活動で努力を重ねてまいりました。

平成24年4月には、道民の皆様へ縄文文化のことを理解してもらおうと民間の団体（略称「北の縄文道民会議」）をつくりました。縄文文化の価値や魅力を発信し、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録を目指した機運を盛り上げる道民運動を展開していくことを目的として、発足した団体でございます。



「縄文」の力が引き寄せた「世界遺産」—多くの縄文の子孫たちに感謝！

浜名 正勝（北海道を愛する会・代表）／北の縄文道民会議・理事

とうとう悲願達成！「北の縄文文化」が「世界文化遺産登録」決定。個人的には30年来の夢の実現。思い起こす事は多々ありますが、何より多くの人に支えられた感謝の気持ちで一杯です。その思いを四名の方に託して記します。

一・堀達也元知事の『大英断』

一九九九年二期目の知事選公約に「北海道と北東北の縄文文化回廊構想」を打ち上げ「将来は世界文化遺産登録も視野に」と明記。各県持ち回りのフォーラム等を開催して機運醸成に取り組み、知事退任後は「北の縄文道民会議」会長として官民一体の柱として活躍されてきました。今日の成果の最大の功労者として感謝申し上げます。

二・石森秀三氏の『北海道愛』

二〇〇五年秋、当時国立民族学博物館教授の石森先生に初めてお会いしました。二〇〇六年には北海道大学に国立大学初となる観光学センターを開設し、以来、観光人材育成の基盤づくりにご尽力されました。こうした功績は北海道として永遠に感謝すべきだと思います。北大退任後は開拓記念館館長や初代北海道博物館館長を勤められ、北海道愛に溢れた論陣を張り道民に

元氣と勇気を与えてきました。二〇〇七年発足の「北の縄文文化を発信する会」代表幹事、また、後身の「道民会議」副会長としていつも適切なアドバイスをくださる大恩人です。



▲足形付土版（函館市）

三・『粘りの推進役』阿部千春氏

20年以上前に、合併前の南茅部町の若き学芸員（アベちゃん）に大船遺跡を案内して貰いました。その資料館にあった「足形付土版」を見た瞬間、厳しい自然の中で必死に生き抜いた縄文の人々が家族や仲間との「生命」をどれだけ大切に繋いで来たのか、その思いに迫り共有出来る様にする、という決意を抱いたことを覚えています。その後アベちゃんとは世界遺産登録を信じて知恵を出し合い共に歩んで来ました。二〇一五年からは北海道庁の縄文世界遺産推進室の正に『推進役』として活躍。特に、ヨーロッパ等海外での理解促進に力を尽くしてくれたことで、国際機関の評価が深

め、広めるのに重要なこれから。更なる活躍を期待しています。

四・『太陽事務局長』戎谷侑男氏

この15年間（エビさん）あってこそ「発信する会」も「道民会議」も粘り強く活動が出来て敬意と感謝しかありません。40年来の友人のエビさんに「発信する会」の参加を呼び掛けて、縄文の不思議な引力に引き寄せられた子孫達が集合して、気持ちの良い会がスタートしたと今も信じています。事務局を担ってくれたエビさん。太陽の様な明るい笑顔で別け隔てなく人を大事にする、これ以上の事務局はありません。社員の方々もいつも心良く対応頂き、ありがとうございます。

以上わずか四人ですが、全ての皆さんへの思いも込めて心より深謝申し上げます。いよいよこれからです。「縄文の子孫達」という誇りを世界に発信する大きな使命に向かって、縄文の持つ力を汲み出して新たな出発を期したいと願います。

JOMON COLUMN



「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録され、北の大地で1万年続いた平等で平和な縄文人の暮らしが「人類の共通の財産」として認定されました。この大きな喜びの中、この度、『北の縄文』「世界遺産登録記念号」を発刊しました。「縄文を愛し」「縄文の心が通じ合う」多くの皆さまにお支えをいただき、節目の20号となりました。心から感謝とお礼を申し上げます。

北の縄文文化の発信は、これからが本番です。編集部一同、縄文パワー、全開で頑張っ

て参ります。(T.H)



北海道知事
鈴木 直道 氏

たくさんの方から
喜びのメッセージが届いています！
ご多忙のところ、ご寄稿いただき
ありがとうございました。



▲令和元年6月
縄文文化交流センター視察の様子（函館市）

令和3年7月、ユネスコ世界遺産委員会において、「北海道・北東北の縄文遺跡群」を世界文化遺産に「登録」することが決定されました。世界文化遺産として本道初、世界遺産としては知床世界自然遺産に続く2件目となります。新型コロナウイルス感染症の影響が長期にわたる中であって、道民の皆様にとっても明るい話題であり、大変嬉しく思っております。

振り返りますと、平成19年の「北海道・北東北知事サミット」において、世界文化遺産登録に向けた共同提案に合意してから14年を経て、道民の皆様の悲願である世界文化遺産登録が実現しましたが、この間、北の縄文道民会議の皆様をはじめ、長年にわたり縄文遺跡群の優れた価値を守り、継承されてきた地域の

皆様など、世界遺産登録に向けてご尽力をいただいた多くの方々に、心から敬意を表しますとともに厚くお礼申し上げます。

北海道・青森県・岩手県・秋田県に所在する17の遺跡で構成する縄文遺跡群は、1万年以上にわたって採集・漁労・狩猟により定住した人々の生活と精神文化を伝える貴重な遺産であり、その顕著で普遍的な価値や保存管理の取組が国際機関に認められたものと認識しております。

私自身、世界文化遺産となった縄文遺跡群の一つである函館市の垣ノ島遺跡と大船遺跡を訪問した際には、縄文人が残した遺跡の価値や魅力、そして豊かな精神性に直接触れるとともに、地域の皆様



▲令和元年6月
大船遺跡視察の様子（函館市）



▲令和元年6月
北海道・北東北の縄文遺跡群総決起大会（東京）

の熱い思いを肌で感じたところで
す。

自然と共生しながら1万年以上も続いた縄文文化には、持続可能な地域社会の実現を目指す私たちにあって、学ばべき貴重な示唆が多くあり、未来に継承したい大切な「宝」であると考えております。

道といたしましては、引き続き、北の縄文道民会議の皆様をはじめ、文化庁や北東北3県、関係市町、そして地域で様々な活動をされている方々とともに、縄文遺跡群の適切な保存と活用に積極的に取り組んでまいりますので、一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



函館市長
工藤 壽樹 氏

道民の皆様をはじめ、多くの関係団体の皆様のご理解とご尽力により、長年取り組んで参りました函館市の垣ノ島遺跡、大船遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録されました。ようやく積年の思いが実現し、感無量であるとともに、心より感謝申し上げます。

世界遺産登録は一つの通過点であり、未来に向けて人類共通の財産として後世に遺し伝えることに重責を感じると共に、一人でも多くの方々に縄文遺跡を訪れていただき、遺跡の価値や縄文文化への理解を深めていただきたいと思います。

千歳市長
山口 幸太郎 氏

令和3年7月、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産として登録されたことにつきまして、この喜びを皆様とともに分かち合うことができず、ことを大変うれしく思います。

登録決定に至るまでにご尽力いただきました北の縄文道民会議の会員の皆様をはじめ、関係者の皆様、ご支援をいただきました道民の皆様にご心より感謝を申し上げます。

このたびの世界遺産登録は、「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産の一つである史跡キウス周堤墓群が所在する千歳市にとつて大変喜ばしいニュースであり、この史跡キウス周堤墓群を後世に残していくため、より多くの方々に北海道の縄文文化の素晴らしさや魅力を知っていただく取組を進めてまいります。



伊達市長
菊谷 秀吉 氏

この度、季刊誌『北の縄文』が創刊20号を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。また、この記念すべき号に「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録決定の報が掲載されますこと、大変光栄に思います。

北海道内の6遺跡を含む縄文遺跡群が世界遺産に登録されましたのも、北海道の縄文文化の魅力発信や機運醸成のためのご活動を重ねてこられた北の縄文道民会議の皆様のご尽力の賜物であります。衷心より御礼申し上げます。

構成資産である北黄金貝塚が所在する伊達市としまして、今後とも皆様との連携のもと、世界遺産たる「北海道・北東北の縄文遺跡群」の魅力発信に努めて参りますので、引き続きご支援をお願い申し上げます。

洞爺湖町長
真屋 敏春 氏

季刊誌「北の縄文」創刊20号、おめでとうございます。また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界文化遺産に登録が決定したことは、これまでご助力いただいている大勢の皆様への感謝とともに、たいへん喜ばしく思っております。

洞爺湖町には国内で初めて世界ジオパークに認定された「洞爺湖有珠山ジオパーク」があります。ここに入江・高砂貝塚が世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」として加わることで、世界に誇れる資源がさらに増えたこととなります。こうした地域の資源を活かし、地域そして文化財の枠を超えたネットワークを築き、関係自治体と連携して、これまで以上にぎわいの創出に向けて、取り組んで参ります。

